

# 平成20年6月2日開催教育委員会会議録

## 1 開会・閉会等について

日 時	平成20年6月2日(月) 午後1時15分
場 所	教育委員会室
開 会	午後1時15分
閉 会	午後1時30分
出席委員	
委 員 長	高 林 眞 理
委 員	高 木 新 太 郎
委 員	高 杉 政 宏
委 員	横 井 利 男
教 育 長	久 保 孝 之
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	坂 本 康 治
庶 務 課 長	鈴 木 陽 子
学 務 課 長	石 井 秀 和
指 導 室 長	仁 王 紀 夫
すみだ教育研究所長	岸 川 紀 子
生涯学習課長	福 山 弘
スポーツ振興課長	郡 司 剛 英
あずま図書館長	吉 田 章

## 2 会議の概要

○高林委員長 それでは、教育委員会を始めたいと思います。本日の会議録署名人は高木委員にお願いいたします。

(平成20年5月19日教育委員会会議録確認)

### 報告事項1

「墨田区議会正副議長の就任について」資料1のとおり庶務課長が説明する。

## 報告事項2

「墨田区議会常任委員会、議会運営委員会、特別委員会委員名簿について」資料2のとおり庶務課長が説明する。

## 報告事項3

「墨田区監査委員の就任について」資料3のとおり庶務課長が説明する。

## 報告事項4

「平成20年度学校図書館連携システム実施対象校の決定について」資料4のとおりあずま図書館長が説明する。

○高木委員 この連携システム実施校はこれから増えていくんですね。

○あずま図書館長 はい。最終的には全校にと考えております。

○高木委員 今どれくらい整備されているのでしょうか。

○あずま図書館長 今回の3校を入れまして、初年度の平成18年度が小学校2校中学校1校で3校、19年度が小学校6校、中学校4校の10校、そして、今年度小学校1校、中学校2校ということで、小学校9校、中学校7校の合計16校です。

○高林委員長 先ほど、小学校は再度の声掛けでとおっしゃいましたが、選定基準のハードルが高いと小学校は考えているのですか。

○あずま図書館長 選定基準のハードルが高いというより、導入に際して、学校側の準備、学校図書館自体の整備などがありますので、それが負担であると判断されたのではないかと思います。また、学校図書館システムの活用方法が若干明確になっていないという点と、支援策も少し明確化できていない部分がありますので、そういうところでちょっと手が出にくいのかなと思います。ただし、導入された学校については、図書館も整備されますし、児童・生徒の利用もかなり活発になってきているということで、成果は出ていると考えております。

○高林委員長 それから、選定基準のところにある、学校図書館ボランティアというのを具体的にもう一度教えていただけますか。

○あずま図書館長 これは、保護者が対象になるかと思うのですが、各学校で募集をかけていただきます。そして、図書の分類の仕方ですとか、図書の選定や廃棄の基準の考え方などの研修をあずま図書館で受けていただき、あとはそれぞれの学校の中で校長先生や図書館の先生方と協議をしながらいろいろ作業をしていただいております。

○高林委員長 そうすると、学校図書館ボランティアに登録されている方というのは、学校によってかなりばらつきがあるのでしょうか。

○あずま図書館長 はい。多いところでは20人以上いる学校もあります。また、1人、2人というところもありますし、全く募集をしていないという学校もございます。

○高林委員長 学校図書館ボランティアをこれから増やしていくために、図書館として何か考えがあるのでしょいか。

○あずま図書館長 これまでの経験からしまして、学校図書館ボランティアに何をさせていただくかとい

うのが十分に伝わっていなかったというのがあると思います。例えば、子どもたちへの読み聞かせのようなものをイメージして応募してきた方に、図書の登録ですとか、分類などをしていただくと、結果として、こんなはずではなかったという風になってしまう方も現にいらっしゃいましたので、今後は、どういう作業をしていただくのかということを確認したうえで、各学校にお願いしようかと思っています。また、現状では十分な体制が整えられていませんが、いわゆるフォローアップ研修的な部分が今後は必要になってくるのではないかと、あずま図書館内部では意見として挙がっております。まだ具体的な計画があるわけではないのですが、いつかはやらなければならないと考えております。

○**横井委員** この学校図書館の利用者は在籍している児童・生徒に限られているのですか。

○**あずま図書館長** 基本的には利用者は児童・生徒と、その学校の先生です。いわゆる地域開放というところまでは至っていません。

○**横井委員** そういう方向性は考えているのですか。

○**あずま図書館長** 現時点では、いろいろ条件がありますので、ただちにというのは難しいと考えております。

○**高木委員** そうすると、ボランティアの範囲も保護者に限定されますよね。

○**久保教育長** だいたい保護者の方、あるいは、お子さんは卒業されたけど学校に関わりをもっている方です。横井委員がおっしゃった方向性について、やっていくうえでは、学校の位置関係ですとか、環境の問題がいろいろございますので、すぐにというのは難しいかなと考えております。そういう方向性があってもいいと思いますが、今の段階ではそこまではできないと考えています。

○**高林委員長** 読み聞かせのボランティアは地域の方もかなり多くの方が学校に入っているという話を聞きますので、学校図書館ボランティアも、保護者の方以外の方にもやっていただきたいですね。学校を通じて募集をかけると、保護者の方しか集まらないと思いますので、何か違った形での募集の仕方をお考えいただくといいのかなと思います。

○**高木委員** 基本的に、いろんな人に学校に関心を持ってもらったほうがいいと思います。

○**あずま図書館長** 中学校では、保護者のボランティアが集まりにくいということもありますので、今後は違った募集の仕方もあると考えています。また、読み聞かせボランティアの育成講習会を事業としてやっておりますので、そこと学校図書館ボランティアとをリンクさせて整備し直すというようなことも考え方としてはあると思います。

○**高林委員長** それでは、以上で予定の報告事項はすべて終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。